

岡山 子ども ESD フォーラム

岡山市ユネスコスクール推進校
岡山市立高等学校

実践事例集



2016年 10月
岡山市教育委員会

はじめに

岡山市教育委員会では、めざす子ども像である「自立する子ども」を実現するために、「E S Dの推進」を岡山市教育振興基本計画に位置づけています。

中学校区で、家庭・保護者、地域社会などが学校園と協働して子どもたちの教育にあたる「岡山市地域協働学校（コミュニティー・スクール）」、また、学校園で中学校区の教育内容や方法などを一貫させ、学びの高まりをめざす「岡山型一貫教育」の理念に基づき、同じ中学校区にある学校が協力しながら、地域と連携して取組を進めています。その中でE S Dの求める能力、心情を地域と協働し育むことで「自立する子ども」の育成をめざしています。

現在岡山市では51校がユネスコスクールに認定され、E S Dの推進拠点として研究・実践に取り組んでいます。

そして、今年度初めて岡山市立学校のE S Dの実践発表の場である「岡山子どもE S Dフォーラム」を開催します。子どもたちの取組を広く地域の方に知っていただき、より一層E S Dの取組が広まることを期待しています。

最後になりましたが、本実践事例集の作成に当たり、ご尽力くださいました関係各校の先生方に対しまして、心から感謝の意を表します。

2016年 10月 岡山市教育委員会事務局 指導課長 岡林 敏隆

もくじ

- はじめに
- もくじ
- 岡山子どもESDフォーラム発表校
 - ・ 岡山市立小串小学校 1
 - ・ 岡山市立京山中学校 3
 - ・ 岡山市立岡山後楽館高等学校 5

- ユネスコスクール実践事例【小学校】
 - ・ 岡山市立足守小学校 7
 - ・ 岡山市立伊島小学校 8
 - ・ 岡山市立御南小学校 9
 - ・ 岡山市立蛍明小学校 10
 - ・ 岡山市立鯉山小学校 11
 - ・ 岡山市立福渡小学校 12
 - ・ 岡山市立建部小学校 13
 - ・ 岡山市立竹枝小学校 14
 - ・ 岡山市立津島小学校 15
 - ・ 岡山市立加茂小学校 16
 - ・ 岡山市立西小学校 17
 - ・ 岡山市立庄内小学校 18
 - ・ 岡山市立高島小学校 19
 - ・ 岡山市立三勲小学校 20
 - ・ 岡山市立宇野小学校 21
 - ・ 岡山市立旭竜小学校 22
 - ・ 岡山市立開成小学校 23
 - ・ 岡山市立角山小学校 24
 - ・ 岡山市立城東台小学校 25
 - ・ 岡山市立御休小学校 26
 - ・ 岡山市立江西小学校 27

・岡山市立千種小学校	28
・岡山市立浮田小学校	29
・岡山市立平島小学校	30
・岡山市立政田小学校	31
・岡山市立甲浦小学校	32
・岡山市立福田小学校	33
・岡山市立曾根小学校	34
・岡山市立福島小学校	35
・岡山市立興除小学校	36
・岡山市立南輝小学校	37
・岡山市立東疇小学校	38
・岡山市立第一藤田小学校	39
・岡山市立第二藤田小学校	40
・岡山市立第三藤田小学校	41

○ ユネスコスクール実践事例【中学校】

・岡山市立足守中学校	42
・岡山市立高松中学校	43
・岡山市立建部中学校	44
・岡山市立御南中学校	45
・岡山市立操山中学校	46
・岡山市立高島中学校	47
・岡山市立上南中学校	48
・岡山市立瀬戸中学校	49
・岡山市立上道中学校	50
・岡山市立光南台中学校	51
・岡山市立福南中学校	52
・岡山市立興除中学校	53
・岡山市立藤田中学校	54
・岡山市立福田中学校	55

岡山子どもESDフォーラム発表校



見つめ直そう 私たちの小串

活動の目的

本校は、岡山市の東南端の児島湾及び瀬戸内海を臨む半島部に位置している。児童数は年々減少傾向にあり、今年度は25名の小規模校である。また、地域の産業として漁業が行われている。人数が少ないゆえに地域との結び付きが強く、地域のニーズともかみ合って、地域全体の支援を受けながら、小串の海を豊かにするための活動を行っている。そして、そういった活動を行うことで、小串の海を守り、自分たちの地域を愛する気持ちを育てていきたいと考えている。

活動の内容

1 体験学習

① つぼ網体験学習

つぼ網体験学習とは、伝統の定置網漁「つぼ網」の引き上げを手伝い、取れた魚をさばくという活動である。事前に地域の方々に「魚の三枚おろし」を教わり、当日は、その経験を生かして、捕れた魚を自分たちでさばいた。



事前学習



つぼ網の引き上げ

② のりすき体験学習

小串の海苔は、地元の名産である。小串漁協の全面的な協力により、今では行われていない方法で「のりすき体験学習」を行った。



昔ながらの方法



海苔の天日干し

2 清掃活動（クリーンアップ児島湾・クリーンアップ光南台）

県の水産課と地元のマリーナの協力を得て、毎年7月に小型船で近くの児島湾に浮いているごみを網で拾う活動（クリーンアップ児島湾）と、中学校と協力して身近な海岸をきれいにする活動（クリーンアップ光南台）を行った。



クリーンアップ児島湾



クリーンアップ光南台

3 アマモ再生活動

アマモとは、海に生息する植物で、酸素を供給し、稚魚の住処となっている。したがって、アマモを増やすことで、魚が増え、海を豊かにすることができる。この活動は、吉備国際大学の福田先生に指導していただき、毎年行っている。平成19年から続けており、今年で10年目になる活動である。

毎年6月に小串漁協の方が、地元の海から「アマモの花枝」を採取している。今年も高学年が陸でアマモを10本ずつの束にし、束ねたアマモを袋に入れて船に吊り下げておいた。8月には福田先生と一緒に「アマモの種の選別作業」を行った。そして9月には吉井川のつながりで交流している西栗倉小学校の第3・4学年が来校して、ビンにアマモの植ええを行った。

また、2月にはダイバーさんに来てもらって、海にアマモの苗を植え付けてもらっている。

さらに、今年度は、海洋建設さんや笠岡市漁協北木島支所の方々に来校していただき、今まで知りたかったことについてお話を聞いたり、話し合ったりした。また、小串の海と関わっている様々な方にもお話を聞いていき、さらに学習を深めるとともに、外部にも発信を続け、私たちの活動を広めていきたいと考えている。

学校概要

学校名：岡山市立小串小学校（おかやましりつこぐししょうがっこう）

校長名：難波 祝子（なんばのりこ） 児童数：25名 教職員数：14名

住 所：岡山市南区小串3379

TEL：(086)269-2014

FAX:(086)269-2342

E-mail:kogusis@city-okayama.ed.jp

調べ学習でのW型学習モデルの活用

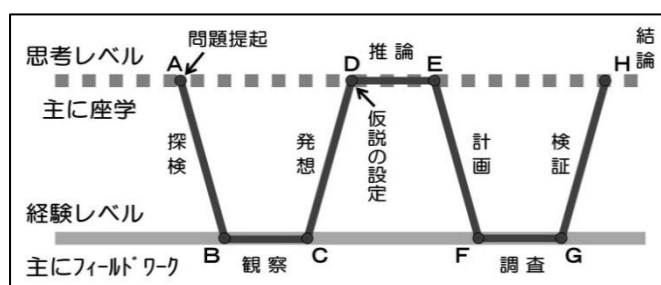
活動の目的

本校は、「自立と創造へ向かう生徒の育成 ―挑戦・共生・豊かな心―」を学校教育目標として掲げ、「学ぶ意欲をもち、自らのもてる力を最大限発揮しようとする生徒」の育成などを目指している。これに向けて、本校は平成24年度よりユネスコスクールに加盟し校外との連携を図るようになった。その中で、学校間・生徒間で情報や体験を共有しながら、地球規模の諸問題について考え、行動できる地球市民を育成したいと考えている。

活動の内容

本校はE S Dの視点を活かして、次のような教育活動を展開している。

1 W型探究活動の実践



「W型探究活動」とは、「① 自ら課題を設定し、その課題の解決のために情報を収集する。/ ② 整理・分析した結果を、まとめ・表現する。/ ③ ②を通して新たな課題を見付ける。/ ④ 再びその課題について探究していく」とい

う過程を繰り返しながら、より質の高い課題解決を目指す教育活動のことである。

2 総合文化発表会



総合的な学習の時間（以下、総合の時間）のねらいは、自ら課題を発見し解決する力の育成である。このことから、総合の時間を中心とする調べ学習では、インターネット等による知識の獲得だけに終始するのではなく、W型探究活動をモデルに学区内外でのフィールドワークなどを積極的に行うよう指導している。特に総合文化発表会（以下、SKF）で発表を行う第2・3学年については、課題解決のために自分なり

の提案や提言やまとめができることをゴールとして取り組んでいる。

3 SKFでの発表に向けて

第3学年のSKFにおいて、1学期にはテーマの決定と校内アンケートや文献調査などを行った。夏休みに、インタビューや見学などの実態調査を行った。2学期に、これまでの調べたことをパワーポイントや模造紙にまとめ、SKFの当日に発表を行った。生徒のテーマと概要の一部を紹介する。

テーマ	主な取組
「世界の子どもたちと教育について」	・教育についての各国の取組の違いや貧しい国の教育の状況について調べる。この調べ学習を通して、世界の教育問題について考えたい。
「現代における着物について」	・着物は美しい。しかし、現代の日本人が着ることはあまりない。それは、なぜだろうか。着物のつくり方や着方、現代人の生活の変化から、その理由を考えることで、着物文化の大切さを伝えたい。
「広島原爆～投下目標の謎について～」	・原子爆弾の開発の歴史、広島に落とされた原爆がもたらした影響や被害などについて調べたり、原爆について詳しい人にインタビューを行ったりすることで、原爆や戦争の悲惨さを伝えたい。
「バリアフリーについて」	・京山学区のバリアフリーのマップをつくり、バリアフリーの場所を紹介する。いろいろな立場や年齢の人たちのことを考えた社会をつくる大切さを伝えたい。
「世界の子どもと飢餓問題について」	・飢餓によって世界の子どもたちがどれだけ苦しんでいるかを伝える。現在の私たちの生活がどれだけ幸せだったり恵まれたりしているのかを伝えたい。また、中学生ができる行動を提案したい。
「最新技術について」	・現在の発達した最新技術について、介護ロボットや医療で使われているロボットなど、身近にあるものを中心に上げて説明する。そうした技術の発展が、私たちの未来の生活の役に立つことを伝えたい。

4 成果と課題について

W型探究活動の推進により、インタビューやアンケート等を積極的に行う生徒の割合が増えた。さらに、それらを通して発見した課題を掘り下げていこうとする態度の成長が感じられるようになった。しかし、発表の場面では、事実と意見を混同して伝えるなどの課題が見られる。伝える力、説明する力を育成していきたい。

学校概要

学校名：岡山市立京山中学校（おかやましりつきょうやまちゅうがっこう）

校長名：草加 充康（くさかみちやす）生徒数：867名 教職員数：74名

住所：岡山市北区津島京町1-7-1

TEL：(086)254-2797 FAX：(086)254-3420

E-mail：kyoyamac7@city-okayama.ed.jp

まちなかのふるさと教育

活動の目的

岡山市立岡山後楽館高等学校では、まちなかの地域資源を生かした社会的・地域的課題を題材としたアクティブ・ラーニングの視点に立った課題研究や、多様な経験や技術をもつ地域の人材・企業などの協力による地域学習などを推進することにより、岡山市の抱える地域課題をともに考え、持続可能な社会の形成者の育成をしたいと考えている。現状では、地元である岡山市の文化や歴史、岡山市が抱える問題などに関心をもっていない生徒も多い。

そこで、岡山市役所や本校周辺にある、文化施設・教育施設・観光施設・商業施設・地元企業などと連携し、地域学校協働活動に取り組むことで、岡山市について理解を深める。さらに岡山市の抱える課題を見付け解決の方法を考え、岡山市をよりよくするための提案を行うなどの活動をする中で、「ふるさと岡山市」における次世代の地域創生の基盤をつくりたいと考えた。

活動の内容

本年度は本校初の試みとして、平成28年7月23日（土）8：00～17：30真庭市津黒中和地区において、「トンボの森づくり体験と環境学習」のプログラムを実施した。旭川水系の上流と下流の違いから水の循環についての理解を深める、整備による森のもつ多面的な機能復活に関する理解を深める、持続可能な社会の構築に向けた意識の向上を図る、という三つをプログラムの目的とし、本校生徒1年次生から3年次生までの11人と教員3名が参加した。

夏の「真庭トンボの森」で旭川の上流にある真庭高校の生徒と交流をしながら、森の機能・役割・森づくりに関する講義や、笹刈り・除伐・木の運搬・伐採木の皮むきなどの森づくりの作業、さらにハンモック体験やネイチャーゲーム等、森



を楽しむプログラムの体験を通して、環境問題や地域経済の活性化について考えるよいきっかけとなった。特に、食べ物の変化や森を使わなくなった生活スタイルが及ぼす影響と今後の問題について、課題解決に向けて森や川など自然環境を生かした地域経済の活性化の重要性を感じるように変化した生徒もいる。

今回の活動から、本校でも学校周辺にある西川用水や西川上流緑道公園での環境保全活動や地域経済の活性化に向けた取組を行う必要があると考えた。

今までも、本校生徒のボランティア活動として、西川用水及び西川上流緑道公園の清掃「西川クリーン作戦」を6年間継続実施している。この活動でも、実際に川に生息する生き物や、投棄されたゴミにふれることを通して自然環境と人間との関わりについて考える機会となっている。今後は、西川を広く学習の場としてとらえ、西川のめぐみと環境の保全、西川を生かした地域の活性化などについての学習と活動を行う予定である。

本校は、唯一の岡山市立高校として、西川での活動をはじめ、岡山市の有する地域資源を活用した地域活性化や岡山市の抱える地域課題の解決等に取り組み、岡山市の持続可能性を高めていくとともに、私たちの「ふるさと」としての岡山を愛する気持ちを深めていきたいと考えている。



学校概要

学校名：岡山市立岡山後楽館高等学校（おかやましりつおかやまこうらくかんこうとうがっこう）
校長名：上林 栄一（かみばやしえいいち） 生徒数：471名 教職員数：79名
住 所：岡山市北区南方1丁目3番15号
TEL：（086）226-7100 FAX：（086）226-7109
E-mail：korak001@city-okayama.ed.jp

ユネスコスクール推進校実践事例



あしもり 岡山市立足守小学校



第4学年「足守川について調べよう」の実践

足守小学校の近くに自然豊かな足守川が流れており、児童にとっては身近な存在である。しかし、じっくりと観察をしたり川について考えたりすることはあまりない。そこで、足守川の生き物の調査を行ったり、つかまえて観察したりすることで、足守川のことを詳しく知ることを目標に学習に取り組んだ。また、足守川を守ろうとしている人々の思いに気付き、自分たちでできることを考え提案できるようにしたいと考えた。1学期に、アスエコに依頼し川の生き物調査を行った。次に、絶滅危惧種を知ることによって自然を守ろうという思いをもった。その後、魚、虫、植物、足守川の源流・下流など自分の興味のあることを調べ、発表を行った。そして、地域の人々にとって愛着があり、自然豊かなこの川を大切にするために自分たちでできることを考えポスターをつくったり、ごみ拾いを行ったりした。児童は、生き物調査を通して楽しんで川の様子を学ぶことからスタートしたので、その後の学習にも意欲をもって活動できた。足守川にはたくさんの生き物がいるが、自然のままの姿の川が減っていることも知ったので、よりいっそう「足守川を大切にしたい。」という思いを深めることができた。

学校概要

学校名：岡山市立足守小学校（おかやましりつあしもりしょうがっこう）

校長名：高見 昭好（たかみあきよし）児童数：186名 教職員数：22名

住所：岡山市北区足守789

TEL：(086)295-0058

FAX：(086)295-0092

E-mail：ashimoris@city-okayama.ed.jp

岡山^{いしま}市立伊島小学校



伊島小学校では「いしまあったかハートプロジェクト」と題して、各学年が様々な学習に取り組んでいる。その中で第6学年は「私たちにできる国際協力」として、カンボジアの日本語学校との交流を続けている。

昨年度は「相手に喜んでもらえることはどのようなことだろうか」ということを考えた結果、かるたや絵本、おもちゃなど、日本語の学習や生活、遊びに役立つものをつくりし、カンボジアの日本語学校へ贈った。「日本のことについてもっと知ってほしい」「かばんとして使える袋があれば役に立ててもらえるかな」という思いから、紙袋に日本の四季の様子を描いたものも贈った。上の右の写真は、カンボジアに届いたときの様子である。

後日、カンボジアの日本語学校の子どもたちから届いた手紙には、きれいな絵とともに一生懸命覚えた日本語を使って感謝の気持ちが書かれていた。第6学年の児童は、自分たちが心をこめてつくったものが、遠く離れたカンボジアの子どもたちに喜んでもらえたことを知り、とても感激していた。また、やってよかったという達成感や、自分たちにできることは小さなことでしかないけれど、相手のことを考えて行動することで、心と心がつながるということを実感することができた。

この小さな国際協力実践活動は、児童の心に種まきをしたにすぎないが、いつの日かこの種が芽を出し、花を咲かせる日がくると考えている。

学校概要

学校名：岡山市立伊島小学校（おかやましりついしましょうがっこう）

校長名：青山 順子（あおやまじゅんこ）児童数：848名 教職員数：88名

住所：岡山市北区伊島町一丁目6番6号

TEL：(086)252-2251

FAX：(086)252-5657

E-mail：ishimas@city-okayama.ed.jp

岡山市立御南みんな小学校



御南小学校では、地域の方々と交流しながら、「地域発見プロジェクト」「福祉プロジェクト」「食と環境プロジェクト」の三つのテーマを決めてE S Dに取り組んでいる。

第3学年では、「地域発見プロジェクト」として、社会科や総合的な学習の時間を使って、昔の暮らしの様子や昔の人々の苦労や工夫を知る活動の入り口として学区の歴史を調べる学習を展開している。10月には、地域のボランティアの方に川舟に乗せていただき、用水路を巡る活動「舟ゆうさん」を行っている。子どもたちは用水路を巡る中で、いつもの通学路から見える学区とは異なる景色を体験したり、農家の台所から用水へとつながる階段が設けられていることを発見したりすることができている。また、昭和30年代まで用水が泳げるほどきれいだったことを聞き、用水を汚さないように自分たちができることについても考える機会にしている。

市街化の進む地域社会にある歴史と伝統を調べる活動を通して、自分たちの住む地域のよさに気づき、継承する担い手を育てていきたいと考えている。

学校概要

学校名：岡山市立御南小学校（おかやましりつみんなしょうがっこう）

校長名：國府島 知子（こうじまともこ）児童数：830名 教職員数：60名

住 所：岡山市北区今保243-3

TEL：（086）243-2461

FAX：（086）243-2462

E-mail：minans@city-okayama.ed.jp

岡山^{けいめい}市立螢明小学校



<目標>

- ①自分たちの住む地域を知る学習を通して、地域についての理解を深め、地域への愛着や誇りをもった子どもを育成する
- ②課題意識を持ち、様々な方法を使って問題解決に取り組もうとする主体的な態度を育む
- ③将来よりよく生きるために、学びを活用できる人材の育成を図る
- ④見学や交流、現地での調べ学習を通して、人・もの・ことと積極的に関わるコミュニケーションの力を身に付ける
- ⑤学習のまとめや発信方法を工夫することを通して、相手を意識した伝える力を身に付ける

<実践の展開>

第3学年では、地域の自然（ホタル・足守川）や産業（足守メロン）について一年を通して学習する。ホタルについてゲストティーチャーに教えてもらったり、メロン団地に見学に行って農家の方へインタビューをしたり、資料やインターネットを使ったりして調べ学習を行っている。学習後には、新聞をつかって掲示したり、全校児童や保護者に発表したりする。こうした活動を通して、地域について理解を深め、地域に対する愛着や誇りも育ってきている。

また、平成27年度からは、E S D学校間ネットワークの活動として、石川県かほく市立大海小学校と手紙や特産品の交換・スカイプ授業などの交流をしている。地域外の人に対して、それまで調べてきた地域のことを発信することで、さらに地域への愛着や誇りを深めるとともに、新たな気付きや多様な視点を得ることにもつながっている。

学校概要

学校名：岡山市立螢明小学校（おかやましりつけいめいしょうがっこう）
校長名：富谷 忠明（とみやただあき）児童数：108名 教職員数：21名
住 所：岡山市北区大井360番地
TEL：（086）295-0142 FAX：（086）295-0146
E-mail：keimeis@city-okayama.ed.jp

りざん 岡山市立鯉山小学校



「ふるさと発見プロジェクト」をテーマにかかげ、総合的な学習の時間での学習活動や全校参加の学校行事による体験活動を通して、調べる力や考える力などを児童に付けることを目標にしている。また、自分たちにできることは何か、それを続けていくにはどのようにしたらよいかを子どもが考えることにより、地域を愛し、地域に貢献できる子どもを育てていくことを目標にしている。

学 年	学年テーマ	内 容
全校	「ふれあいもちつき」 (12月)	吉備津三味線餅つき保存会・婦人会・老人会等の協力の下に全校児童参加の餅つきを行う。三味線クラブの児童のお囃子に合わせてリズムカルな餅つきを体験し、きな粉餅をいただき収穫に感謝する。
第3学年	鯉山の自然と史跡調べ (4月～3月)	指標植物のタンポポの分布や吉備津神社について伝統や由来を調査する。地域の自然や伝統に興味をもつ。
第4学年	環境問題と高齢者問題 (4月～3月)	地域の環境を守るため紙のリサイクルに取り組んだり、地域の高齢者と交流したりして、環境と高齢者に対する問題意識を高める。
第5学年	地域の農業、米とくらし (4月～3月)	陸稲づくりに挑戦し、米づくりの苦労を体感するとともに、ふれあいもちつきで収穫に感謝する。感謝の会で招待した地域の方や地域の高齢者に赤飯を振舞う。
第6学年	吉備津の未来を考える (4月～3月)	自分たちの地域やくらしを見つめ直し、課題を見付け解決する方法を探り、リーフレットにまとめ提言する。

(課題) 常に変化していく地域の課題に対応できるように学習活動を見直し、E S Dに関する理解を深めるため、校内研修を活用していく必要がある。

学校概要

学校名：岡山市立鯉山小学校（おかやましりつりざんしょうがっこう）

校長名：山田 恵子（やまだけいこ） 児童数：216名 教職員数：27名

住 所：岡山市北区吉備津1444

TEL：(086) 287-3024

FAX：(086) 287-3034

E-mail：rizans@city-okayama.ed.jp

ふくわたり
岡山市立福渡小学校



◆**真庭市立中和小学校との交流** 旭川中流域に位置する福渡小と上流域に位置する中和小で『旭川がつなぐ絆』というテーマで交流している。福渡小の児童が中和小へ訪れ、旭川の源流付近を探索したり自然観察専門員の方のお話を伺ったりした。中和小の児童を福渡小へ招いた際は、学校近くのB&G海洋センターでカヌーを体験した。また、各流域で水質検査を行い報告し合った。

◆**福渡駅おそうじプロジェクト** 社会科見学で福渡駅を利用した際、待合室が虫の死骸や鳥の糞などで汚れており、椅子に座れなかったことから、児童たちが自ら発案した活動である。当日は、JRの方や保護者の方なども協力してくださっている。

◆**地域の人材と資源を生かした取組** 地域の方を講師に迎え、建部の産物にふれる活動を行っている。オйкаワ（ハエ）釣り体験とオйкаワ（ハエ）を使った郷土料理づくり、建部ピーマンの栽培とピーマンゼリーづくりなどを行った。

成果と課題 年々、新しい単元開発や他校や地域の方との関わりも増え、学習も充実してきている。しかし、本校は、学区が広いため見学や調査等の交通手段や交通費の負担が今後の課題である。

学校概要

学校名：岡山市立福渡小学校（おかやましりつふくわたりしょうがっこう）

校長名：片山 健（かたやまたけし）児童数：57名 教職員数：15名

住 所：岡山市北区建部町川口1302番地

TEL：（086）722-2111

FAX：（086）722-2339

E-mail：fukuwataris@city-okayama.ed.jp

岡山市立建部小学校



建部小学校では、学校のテーマを「地域とつながろう絆プロジェクト～人・自然」と設定してE S Dを進めている。

第6学年の「建部の歴史再探訪」では、地域に遺る史跡を見学したり、地域の方の話を聞いたりしながら地域の歴史を学んでいる。

※学習活動の主な流れ

- 図書資料を活用して地域の史跡について調べる。
- 史跡（建部駅・江戸時代の街並みが遺る建部新町・成就寺・古墳）を見学する。
- 地域の方の話を聞く。（旭川の建部井堰）
- 建部史跡マップをつくったり、新聞にまとめたりする。

子どもたちは自分たちが住む地域にある史跡の歴史的価値を知り、驚きがあった。また地域の方と一緒に見学したり、知らなかった話を聞いたりしながら、これからも大切に守っていかなくてはならないという思いをもっていった。

3学期には4年間の地域での学びの中から「これからも大切にしたい建部の宝」というテーマで「地産地消・福祉・環境」など様々な視点からプレゼンテーションを作成し、保護者や第5学年に向けて発表する。

学校概要

学校名：岡山市立建部小学校（おかやましりつたけべしょうがっこう）

校長名：宮尾 勅香（みやおのぶか） 児童数：130名 教職員数：17名

住 所：岡山市北区建部町富沢366

TEL：(086)722-0073

FAX：(086)722-4074

E-mail：takebes@city-okayama.ed.jp

たけえだ 岡山市立竹枝小学校



竹枝小学校では、環境学習や食農体験学習などを通して環境問題や自然と人との共生について考えるとともに、ふるさと「竹枝」を大切にすることを育てることを目標とし、様々な活動に取り組んでいる。

環境学習では、稲刈りをした後の田に水を入れ「冬水田んぼ」をつくり、水辺の生き物の生活場所やニホンアカガエルの産卵場所の確保をしている。5月には「田んぼの生き物調査」をし、田の生き物や周りの環境について調べている。

食農体験学習では、地域の方とともに、米づくりや野菜づくりなどの農業体験を行っている。その活動を通して、自然を相手に作物をつくる大変さに気付くとともに、食べ物を大切にしようとする態度が育ってきている。

2月には「ふるさとづくり発表会」を開き、大学関係者や地域の方とともに、一年間の活動報告や話し合い活動などを行い、学習のまとめとしている。

竹枝の豊かな自然を生かした学習を通して、児童に人や自然を大切にすることや進んで課題を解決しようとする態度、ふるさと「竹枝」を愛する心が少しずつ育ってきている。

学校概要

学校名：岡山市立竹枝小学校（おかやましりつたけえだしょうがっこう）

校長名：竹井 誠（たけいまこと） 児童数：41名 教職員数：14名

住 所：岡山市北区建部町吉田1504

TEL：(086)722-0818 FAX:(086)722-2618

E-mail:takeedas@city-okayama.ed.jp

岡山^{つしま}市立津島小学校

豊かな自然と愛あふれる人のまち津島未来計画

環境教育



緑のカーテンづくり

人権



車いす体験

国際理解教育



外国の人との交流

食育



大豆を使って醤油づくり

まちづくり



まちで働く人の工夫発見

津島小学校では、総合的な学習の時間を中心に、次のような5領域に重点をおき、地域の教育資源を取り入れたE S Dを行っている。

- ① 地球環境問題を学び、解決策の計画・実践を行う「環境」
- ② 日本の昔遊びや外国と日本の文化の違いを学ぶ「国際理解」
- ③ 日本の伝統的な食文化を学び、食生活の改善を行う「食育」
- ④ 障害者や高齢者を中心とした人とのつながりについて学ぶ「人権」
- ⑤ 自分たちが住む町の文化継承や防災について学ぶ「まちづくり」

例えば、地球温暖化の現状を学び、危機感と課題意識をもって、緑のカーテンづくりの二酸化炭素削減を実践し、地域へ発信している。持続可能な社会を実現するために、課題発見能力、情報処理能力、思考力・判断力、思いやりの心、コミュニケーション能力、行動力などを育成している。

学校概要

学校名：岡山市立津島小学校（おかもやしりつつしましょうがっこう）

校長名：石原 昌勝（いしはらまさかつ） 児童数：836名 教職員数：61名

住所：岡山市北区津島本町19番1号

TEL：（086）253-3250

FAX：（086）253-3331

E-mail：tsushimas@city-okayama.ed.jp

岡山市立加茂かも小学校



「われら加茂の子」

<目標>

- 加茂学区の歴史を調べ、学区の歴史や文化財に関心をもち、自分たちの生まれ育った地域に誇りをもつことができる。

<実践の展開>

- 社会科「日本のあゆみ」をもとに古墳について学習し、造山古墳についてホワイトボードを使いながらグループで話し合う。
- 歴史遺産を守っている人の話を聞く。・造山古墳 ・千足古墳
- たくさんの人に造山古墳を知ってもらうためには何ができるかを考え、造山古墳の写真俳句を作成する。高松公民館に掲示し、造山古墳をPRする。
- 保護者と造山古墳を清掃した後、造山古墳蘇生会の方と交流を深める。

<成果と課題>

- 造山古墳蘇生会をはじめ、地域の人に支援していただき、感謝している。
- 地域にある施設、歴史遺産、産業を学習し、加茂学区を理解し、地域を愛する心情を育てていきたい。

学校概要

学校名：岡山市立加茂小学校（おかやましりつかもしょうがっこう）

校長名：今村 恵子（いまむらけいこ） 児童数：243名 教職員数：26名

住所：岡山市北区津寺517

TEL：(086)287-2077

FAX：(086)287-2091

E-mail:kamos@city-okayama.ed.jp

岡山市立西にし小学校



西学区は、現在、住宅地であるが、昔は田んぼが大変多く、農業が盛んであった。現在も米づくりをしている人がおられ、田んぼも残っている。西小学校では、地域の方やJAの職員の方の協力を得て、社会科で米づくりについて学習する第5学年の児童が、「田んぼの学校」という単元の中で、1年間を通して、どろんこ体験や田植え体験、案山子づくり、稲刈り体験、ライスパーティーなどの体験活動を行っている。それらの活動の中で、米づくりをしている地域の人の苦勞や工夫を考え、地域の方への感謝の気持ちを持ち、それを伝えることができるようにしたいと考えている。活動の成果としては、様々な体験活動を行うことで、児童らは、自分たちが毎日食べているお米が、身の回りの多くの方々によって育てられていること、実りの時を迎えるまでの多くの苦勞によって成り立っていることなどに気付くことができ、地域の方への感謝の気持ちをもつことができた。また、自分たちの地域について調べる活動を通して、西学区のよさを発見することもできた。一方で、地域貢献やキャリア教育の視点も加味した指導内容の一層の充実が課題として挙げられる。

学校概要

学校名：岡山市立西小学校（おかやましりつにししょうがっこう）

校長名：牧平 芳明（まきひらよしあき）児童数：1224名 教職員数：75名

住 所：岡山市北区中仙道一丁目18番20号

TEL：（086）241-0936

FAX：（086）241-3025

E-mail：nishis@city-okayama.ed.jp

しょうない 岡山市立庄内小学校



「庄内小学校 地域発見・発信プロジェクト」

本校では、「身近な地域の自然・社会・人々との関わりを通して、地域に対する親しみと愛着を深め、自分の生き方を考える」をテーマに、地域社会との交流や体験的な学習を通して、地域の環境・歴史・文化を守りそれらをより発展させていく「持続可能な社会の担い手」としての児童の育成を目指して取組を進めている。

第4学年「みんなにやさしい町 庄内」では、盲導犬に接したり、車いすに乗ったり押したりする体験等を通して障がい者や高齢者の福祉について学び、これらの学習を生かして、地域の高齢者福祉施設の利用者とのふれあい活動を児童が計画・実践している。自分たちの活動が地域貢献となっていることを実感できる学習が児童の大きな力となっている。また、第6学年「見つめよう地域を 世界を 自分を」では、古代吉備の中心地に位置する学区の文化財見学を通して、地域の歴史や文化とその継承に力を注ぐ人々の思いや努力について学んでいる。その後、世界に目を向け、社会科の学習等とも関連させながら、環境や社会の問題を見付けて調べ、日本（自分たちの地域）と世界との様々なつながりについて考える学習を行っている。

このように、学びを生かして実践につながるような取組を考えたり、学んだことを保護者や地域等に向けて発信したりする学習が、児童一人一人の将来の生き方を考える力となっている。

学校概要

学校名：岡山市立庄内小学校（おかやましりつしょうないしょうがっこう）

校長名：則武 尚子（のりたけしょうこ） 児童数：615名 教職員数：50名

住 所：岡山市北区三手366-2

TEL：(086)287-2014 FAX:(086)287-7305

E-mail：shonais@city-okayama.ed.jp

岡山市立高島たかしま小学校



えさやり



放流

高島小学校では、総合的な学習の時間(たかしま学習)を中心に、児童が自然や地域の人々、ゲストティーチャーと関わりながら高島地域が持続発展する可能性について多面的・総合的に考える活動を行っている。このような活動を通して、地域に愛着をもち、地域のために活動できるような能力を身に付けることができると思え活動に取り組んでいる。

活動内容として、本校では第5学年がたかしま学習「高島の自然は大丈夫？」の中で天然記念物であるアユモドキに関わっている。アユモドキの生態やえさである微生物、住処などについてゲストティーチャーの話の聞いたり、自分たちで調べたりした上で人工繁殖と世話をを行った。話を聞いたり実際に生まれ育っていくアユモドキを飼育・観察する中で、地域の環境を大切にする人々の思いや自分たちにできることについて考えることができた。また、大切に育てたアユモドキの放流や宮島水族館への贈呈式も行っている。

アユモドキに関する活動を通して、地域への愛着心や地域の一員としての自覚、自然との共生を目指す意識や実践力、コミュニケーション能力など、児童の生きる力が高まっている。また、児童が主体的に活動に取り組むことにより、環境保全や学区のよさについて、地域の関心も高まってきた。その反面、一方的に学習したことを発表する活動が多く、他団体や他校の子どもとの相互の交流はほとんどできていないのが現状である。子ども同士が交流して学ぶことのメリットを考え、どのように今ある活動に取り入れていくかを検討する必要性を感じる。

学校概要

学校名：岡山市立高島小学校（おかやましりつたかしましょうがっこう）

校長名：西岡 清（にしおかきよし） 児童数：1000名 教職員数：73名

住 所：岡山市中区国府市場131

TEL：(086) - 275 - 0069

FAX：(086) - 275 - 3292

E-mail：takashims@city-okayama.ed.jp

岡山^{さんくん}市立三勲小学校



ふるさとを誇りに思い、愛する心を育み、末永く発展していく地域社会を創っていく担い手を育てることをねらいとして、「ふるさと学習」に取り組んでいる。三勲学区の“人・自然・文化”を題材として継続的に、主に総合的な学習の時間に学習を進めている。「ふるさと学習」の集大成として第6学年は、喜多流能楽師の大島先生の指導のもと、「能学習・伝統文化をさぐろう」という学習に取り組んでいる。座り方や立ち方、扇の持ち方から始まり、発声方法や「かまえ」「すり足」と学習が進み、2学期（11月）には、後樂園の能舞台で保護者や地域の方を前に、袴と着物を着用して学習の成果を発表する。能楽師に指導を受けることで、児童は「本物」のもつ圧倒的な迫力を体験し、伝統文化を継承していく人間の真摯な生き方を学び取り、過去から未来に受け継ぎ、渡していくべきものの大切さを学んでいる。

本校には、地域の方々やPTAが継続的に寄贈、補修をしてきてくださった着物・帯・袴が100セット以上そろっている。地域をあげて学習の継続を願い、学校の活動を応援してくださっているのである。

学校概要

学校名：岡山市立三勲小学校（おかやましりつさんくんしょうがっこう）

校長名：清廣 玲子（きよひろれいこ）児童数：588名 教職員数：58名

住 所：岡山市中区徳吉町1-1-21

TEL：(086)272-3141 FAX:(086)271-1239

E-mail:sankuns@city-okayama.ed.jp

岡山市立宇野小学校



2016 宇野小学校プロジェクト

宇野小学校は、長年にわたり人権教育に取り組んできた経緯があり、E S Dにおいても、様々な立場の人との関わりを通して、自分たちの身の回りの人に目を向け、それぞれが支え合ったりつながり合ったりしていることを発見していくような取組をしている。そして、今までの生き方や考え方を見直し自ら行動できる子どもを目指している。

第1学年は幼稚園や保育園の子どもたちとの関わりを通して、第2学年は高齢者、第3学年は地域の工場で働く人たち、第4学年は目に障がいのある同年代の子どもたち、第5学年はハンセン病療養所入所者の方や療養所で働く人たち、第6学年は外国籍の人たちというように、学年が上がるにつれて、関わる対象も身近な人から世界へと広がっていく。

特に第4学年では、学区内に盲学校や点字ブロック発祥の地があるという地域の特色から、目の不自由な人との関わりを通して活動を進めている。障がいのある人と関わる中で、障がいや障がいのある人の思いに気づき、ともに生きるために、正しい生き方を考え実践していくことを目標としている。実際に体験することで障がいについて理解を深めるだけでなく、盲学校の子もたちと関わる中で、今まで気付かなかった彼らの思いを知ったり、行動を変えていったりする児童が増えているのがよい成果である。今後は、関わり方を深め、学んだことを発表する場を増やすなどしていきたい。

学校概要

学校名：岡山市立宇野小学校（おかやましりつうのしょうがっこう）

校長名：藤井 肇（ふじいはじめ） 児童数：896名 教職員数：72名

住所：岡山市中区原尾島1丁目9-1

TEL：(086)272-5281

FAX：(086)272-5282

E-mail:unos@city-okayama.ed.jp

きょくりゅう
岡山市立旭竜小学校



郷土愛・共生プロジェクト～美しい郷土，未来へつなげ（歴史を探ろう）～
目標：地域にある史跡を見学し，旭竜・高島学区のすばらしさに気づき，自ら進んで歴史的事象を調べ，プレゼンテーションすることができる。

- ① 学区在住の歴史研究家の方から地域の歴史，岡山の歴史について話を聞いたり，実際に歴史家の方の説明を聞きながら一緒に見学したりして，見たこと聞いたこと，質疑応答の内容をワークシートに文や絵で記録した。
- ② 土曜参観日に，保護者やお世話になった地域の歴史家をお招きして，パソコンで作成したスライドを示しながらプレゼンテーションを行った。
- ③ 連合町内会副会長さんに，旭竜学区の「人・もの・こと」はどのように発展してきたか，今後どのようになってもらいたいかなどの願いを聞いた。

地域住民である歴史家の方の案内により，地域の歴史的遺産に実際にふれることで，地域に対する親しみと愛着を深めることができた。また，毎年同じゲストティーチャーの方に継続して活動に携わっていただいているので，本校児童の実態に応じた取り組み方や分かりやすい資料提供をしていただいております。児童の興味関心を喚起し継続していくには大変有効であった。

まとめ方や発表の仕方にまだ課題があるが，さらに単元構成を工夫し，学びがより充実したものとなるようにしていきたい。

学校概要

学校名：岡山市立旭竜小学校（おかやましりつきょくりゅうしょうがっこう）

校長名：延堂 雅弘（えんどうまさひろ）児童数：161名 教職員数：24名

住所：岡山市中区八幡8-1

TEL：(086)275-0130

FAX：(086)275-0136

E-mail：kyokuryus@city-okayama.ed.jp

岡山^{かいせい}市立開成小学校



〈環境にやさしい農業体験〉

1 目標

ふるさとの米づくりについて理解するとともに、地域の自然や環境を大切にしようとする意欲や、地域の人々に感謝の気持ちをもつ子どもを育てる。

2 実践の展開

1学期に第5学年が、環境にやさしい米づくり(アヒル農法)について、地域の方から学び、地域の方と一緒に田植えを行った。アヒルの雛を田に放して、無農薬の米づくりに取り組んだ。その後、地域の方の協力を得ながら、稲の生長やアヒルの様子を観察し続けている。

今後は、稲刈りをしたり、全校児童が地域の方と一緒に餅つきをしたりする予定である。

3 成果と課題

米づくりが盛んな地域であるが、実際に田植えや稲刈りを体験したことのある子どもは少なく、米づくりへの関心も低かった。しかし、体験を通して児童はふるさとの米づくりや豊かな自然に関心をもつようになった。また、多くの地域の方々との関わりを深めることができている。

体験したことや学んだことを校内や他校の人々と交流して、さらに深めていきたい。

学校概要

学校名：岡山市立開成小学校（おかやましりつかいせいしょうがっこう）

校長名：竹内 詳治（たけうちしょうじ） 児童数：129名 教職員数：21名

住所：岡山市東区金田1524番地

TEL：(086)948-2042

FAX：(086)948-2742

E-mail:kaiseis@city-okayama.ed.jp

つ の や ま 岡山市立角山小学校



角山小学校では「あいらぶつのだやま」を合言葉に、地域を愛する心を育てることに全学年をあげて取り組んでいる。それは、「自分たちの学区はいいところだな」「こんなところはどこにも負けないぞ」という思いが、これからの人生の支えの一つになると考えたからである。

低学年では、虫取りや魚とり、菜の花つみなど、自然としっかりふれあうことで学区の自然の豊かさを体感する。中学年では、果樹園や老人ホームで働く人と関わることで学区の人のがんばりやよさにふれる。複式高学年では、奇数年度に学区の中心産業である稲作を、田植えや稲刈り、バケツ稲などの体験を通して学習している。また、3学期には、無農薬栽培の話聞き、きからしの種まきをする。そして、偶数年度には、地域にある豊富な史跡（古墳・貝塚・寺社など）を訪ね歴史学習とタイアップしながら学習している。

上の写真は、米の無農薬栽培の様子だが、第5・6学年が播いたきからしの花が満開になったところである。美しいだけでなく、すきこむことで肥料となり、これからのよりよい農業の方向性も学習できた。

学校概要

学校名：岡山市立角山小学校（おかやましりつつのだやましょうがっこう）

校長名：吉信 雅庸（よしのぶまさのぶ） 児童数：39名 職員数：10名

住所：岡山市東区才崎389

TEL：(086) 297-2378 FAX：(086) 297-2318

E-mail：tunoyamas@city-okayama.ed.jp

じょうとうだい
岡山市立城東台小学校



つな じょうとうだい
繋がれ城東台！

そうせい
～ふるさと創生プロジェクト～

本校では、第1学年から第6学年までの各学年で、個別に行われていた取組をESDの視点からとらえ直し、全学年で『地域 城東台』を核に据えた教育を行っている。教科間やプロジェクト間のつながりも意識し、児童の態度・能力の育成に努めている。

第4学年では、福祉をテーマに活動を進めている。アイマスク体験などの体験活動や、UDの物や考え方を調べていく中で、坂道が多く、高齢化の進む自分たちの地域を見つめ直す機会としている。

児童の学びがより深まるためには、どのような形で地域や保護者に発信すればよいのかが今後の課題と考えている。

学校概要

学校名：岡山市立城東台小学校（おかやましりつじょうとうだいしょうがっこう）

校長名：後藤 緑（ごとうみどり）児童数：294名 教職員数：31名

住 所：岡山市東区城東台西三丁目6番3号

TEL：(086)208-6430 FAX:(086)278-3865

E-mail: jotodais@city-okayama.ed.jp

岡山市立御休^{みやす}小学校



○目標

地域の農家でつくっている野菜を調べたり，実際に野菜を育てたりする活動を通して，野菜が食卓にのぼるまでには，様々な人が関わっていることに気付き，感謝して食べようとする気持ちを高めることができる。

○実践の展開，子ども・教師・地域の方の様子

「野菜マスターになろう」の学習で，子どもたちはどうやったらマスターになれるか話し合い，「育てている人に尋ねる。」「図書館で調べる。」「パソコンで調べる。」などの意見が出た。そこでまず，地域で野菜づくりをされている農家の畑を見学し，農家の方に野菜の育て方や苦労について教わった。学校の畑を耕し，野菜の苗を育てる中で，野菜の成長や実りを喜ぶ姿があった。地域の方からのアドバイスをもとに，一生懸命世話をすることができた。

○成果と課題

この活動を通して，農業をする大変さや大切さに迫ることができた。地域で野菜がたくさん栽培されているということが分かり，地域の特産物や野菜についてもさらに目を向けることができるようにしていきたい。

学校概要

学校名：岡山市立御休小学校（おかやましりつみやすしょうがっこう）

校長名：重松 恵子（しげまつけいこ）児童数：138名 教職員数：25名

住 所：岡山市東区西祖179

TEL：(086)297-2031

FAX:(086)297-2055

E-mail:miyasus@city-okayama.ed.jp

岡山^{こうさい}市立江西小学校



第4学年では、総合的な学習の時間の学習で「バリアフリーについて学ぼう」を1年間かけて実践している。「地域とつながり、ともに支え合いながら生きていくために」をテーマに、点字学習や車いす体験などを通して、自分たちにできることを考え、行動してみようという目標である。また、住みよい社会をつくるために思いやりや助け合いの心をもつ児童の育成を目指している。

まず、国語科で学習した点字をきっかけにして、点字や車いすなどについて学んだり体験したりする学習を展開した。また、目の不自由な方から話を伺ったり、パートナーである盲導犬の活動を見学したりして、「バリアフリー」について一層興味を深めることができた。

児童は、「体の不自由な人も困らないような工夫がたくさんある。」「おじいちゃんの車いすを今度押してあげたい。」と自分の生活とつなげて考えることができるようになってきた。

今後については、情報の発信を計画している。11月に予定している学習発表会では手話を使った歌を歌う予定である。その中で、地域の方や保護者の方や全校児童に向けて児童のメッセージを届けたいと考えている。また、地域にある「バリアフリー」施設を児童が見付け、点字施設やバリアフリー施設についての問題を考え、「ここにもスロープを設置している。」などの意見や考えを新聞にして、地域に発信できるようにしたいと考えている。

学校概要

学校名：岡山市立江西小学校（おかやましりつこうさいしょうがっこう）

校長名：河原 浩美（かわはらひろみ） 児童数：574名 教職員数：44名

住所：岡山市東区瀬戸町江尻1399番地の2

TEL：(086)952-0033

FAX：(086)952-0034

E-mail:kousais@city-okayama.ed.jp

岡山市立^{ちくさ}千種小学校



【第5学年】「アユモドキの人工繁殖に取り組もう」

(総合的な学習の時間) 20時間

岡山市教育委員会文化財課及び淡水魚研究会の協力を得て、地域に生息する国の天然記念物アユモドキについて学ぶ。アユモドキの研究者や保護団体の指導のもと、水辺の学習をした後、校内に生息している環境に似せた水槽をつくり、地域の方から餌となる田んぼの水をもらいながら人工繁殖を行う。産卵から孵化を経て稚魚へと成長する過程を観察したり世話をしたりしながら、最終的にアユモドキを近隣の公共施設や神戸市立須磨海浜水族園に寄贈し、種の保存を図る。

さらに、アユモドキが同じように生息する他地域(岡山市高島地区、京都府亀岡市)と、アユモドキの生息状況や学習の様子等の情報交換を行い、社会生活と自然環境とのつながりについて考え、自分たちの住んでいる地域の課題を見つけ、解決の方法について検討する。また、調べたことを壁新聞にまとめたり、学校新聞やポスターをつくったりして発信するなど、よりよい社会の実現のために、自分たちにできることを探る。

【成果と課題】(昨年・一昨年の取組から)

学習を通して、地域の自然環境に目を向けながら、ポスターや劇を制作して環境保全を呼びかけるなど、地域の課題を把握し解決しようとする姿勢を育成することができた。また他地域と積極的に情報交換を行うことで、他者とのつながりを持ち、社会の発展に共に寄与していこうとする意識を高めることができた。

しかし、アユモドキの人工繁殖活動は、自然が相手であるため、年度により成否の差が大きく、それに伴い児童の活動意欲も大きく左右される傾向がある。また、アユモドキの飼育中は高かった活動意欲も、その寄贈と共に一気に下がる傾向があることも否めない。いかに、児童の活動意欲を維持し、持続可能な社会づくりへとつなげていくかが問われる。

学校概要

学校名：岡山市立千種小学校(おかやましりつちくさしょうがっこう)

校長名：桴元 哲哉(とちもとてつや) 児童数：159名 教職員数：14名

住所：岡山市東区瀬戸町鍛冶屋391

TEL：(086)953-0604

FAX：(086)953-0602

E-mail：chikusas@city-okayama.ed.jp

うきだ 岡山市立浮田小学校



第6学年では「浮田の歴史探検プロジェクト」として、1学期に浮田学区の地域の方から浮田の歴史を学んだ。実際に学区にある貝塚の跡や古墳などを見学することで、社会科の歴史学習で学んだことが具体的なものとなった。保護者にも呼びかけ、一緒に見て学ぶことができたこともよかった。学校の近くには亀山城跡（沼城跡）があり、この地で活躍した宇喜多直家、秀家や学区の歴史について調べていくことで、地域の歴史のよさにふれることができた。

2学期には、浮田学区で発見された江戸時代の倭約令の立て札を見せていただくことで、自分たちの暮らす地で実際に使われていた物を前にして、学区の歴史をより身近に感じることができたようである。また、地域の歴史や地域の宝を運動会の組体操で表現し、保護者や地域の方へ浮田学区のよさを発信することができた。

児童は地域に対して自分たちにできることは何かを考え、亀山城跡清掃の計画を立てた。その際には、地域の方も参加していただき、清掃活動を通して交流をすることができた。寒い中での活動を終わると、お汁粉の振舞いがあり、児童には地域の方々の温かさが伝わったようである。

第1・2学年は生活科、第3～6学年は総合的な学習の時間を主としてESDに取り組んでいるが、今後、学年ごとの縦の系列の見直しを図る必要があると考えている。

学校概要

学校名：岡山市立浮田小学校（おかやましりつうきだしょうがっこう）

校長名：浅井 宏史（あさいひろし） 児童数：185名 教職員数：20名

住所：岡山市東区沼1725

TEL：（086）297-2017

FAX：（086）297-2052

E-mail：ukitas@city-okayama.ed.jp

ひらじま 岡山市立平島小学校



地域を流れる砂川の生き物について調べ、身近な地域の環境について知ることを目的に、砂川フェスタ（砂川で遊び学ぶイベント）実行委員会主催の「砂川フェスタ」に高学年希望者で参加した。

約1時間川の中に入って魚を取り、その後30分は専門の方から取れた魚について詳しく説明を受けた。生息する魚の種類はやや減少傾向にあり、取れる量は明らかに減少しているとのことであった。参加した児童は砂川にも珍しいタナゴが生息していることに驚いていた。また同時にパックテストによる水質検査も行ったが、水質はあまりきれいとはいえない結果が出た。今後も学校の周りの川などの数値も測定して比較していく予定にしている。

活動には大変熱心に取り組んでおり、環境問題について関心を高めることはできたと思われる。学習したことをどのようにまとめるか、またどのように広げて環境問題学習を深めていくかが課題である。

学校概要

学校名：岡山市立平島小学校（おかやましりつひらじましょうがっこう）

校長名：古川 治郎（ふるかわじろう） 児童数：228名 教職員数：28名

住所：岡山市東区東平島1293

TEL：（086）297-3037

FAX：（086）297-3033

E-mail：hirajimas@city-okayama.ed.jp

岡山市立政田まさだ小学校



第5学年では、米づくりの一連の活動を直接体験することを通して、米づくりの大変さや喜びなどに気付くとともに、米づくりに欠かせない身近な水環境について見直し、それらを守っていくためには何が必要なのかを考え、行動に移していくことをめあてとして取り組んでいる。

田園風景は身近であっても、実際の米づくりの作業を体験したことがある児童は少なく、この体験活動は欠かせないものである。また、地域の方々の協力なくしては成り立たない活動で、年間を通して有志の方々にお世話になりながら、田植え・青田刈り・稲刈り・おかざりづくりなどの主な体験を進めている。

田植えや稲刈りの活動では、機械を使わずに作業することで、児童は先人の苦労や願い、収穫の喜びを実感することができた。

そして、青田刈りをした稲を使ってのおかざりづくりでは、初めての作業に戸惑いながらも、ボランティア先生に自分から質問したり、コツを教わったりする児童の熱心な姿が見られた。

さらに、調べ学習、身近な水辺の生きもの調査、水質検査を通して、児童は用水路の水が思っていたよりも汚れていることに気付き、地域の水環境を守りたいという思いをもった。そして、アクリルたわしづくりに取り組んだり、地域の方に呼びかけたりする活動に広がっていった。

学校概要

学校名：岡山市立政田小学校（おかやましりつまさだしょうがっこう）

校長名：井上 喜雄（いのうえよしお）児童数：232名 教職員数：21名

住 所：岡山市東区政津850番地

TEL：(086)948-3406

FAX：(086)948-3430

E-mail：masadas@city-okayama.ed.jp

岡山^{こううら}市立甲浦小学校



本校では、「なかよし遊び」として、全校児童が20の縦割り班に分かれ、異学年での遊びや地域の自然探索を行っている。ロング活動の「なかよしロング」では、1学期と2学期に、学区にある「赤木自然林（学校林）」と「飽浦海岸」の2カ所に分かれ、それぞれの環境の中で第6学年がリーダーとなって、遊びやクイズなどを考え、班ごとに活動を行う。

赤木自然林では、木々や草花、虫を探しながらネイチャーワークを行う。第6学年は、事前に探す植物や虫の写真を撮ってラミネートカードをつくり、班のみんなで活動が楽しめるようにしている。

飽浦海岸では、事前に調べた砂浜の生き物を防水用デジタルカメラで撮って、ラミネートのカードにし、班で協力して生き物探しをしたり、海岸から見える物や景色を探したりしている。また、砂浜で砂山や水路づくりをし、上級生も下級生も自然の中での遊びを楽しんでいる。

このように、「なかよしロング」では、どの活動にも甲浦環境タイムを設定し、その場所で自然や生き物を探して、地域の自然に親しむ活動にじっくり取り組めるようにしている。

また、事後は感想を書いたり絵で表したりして、楽しかった思い出や気づきなどをポートフォリオ形式で残すとともに、高学年の企画、運営、準備等も併せて校内に掲示し、それぞれの班の活動の様子や感想を全校で共有している。今後は、お世話になった方々にお礼の手紙を書いたり、保護者や地域の方に紹介したりするなど情報発信を行う予定である。

学校概要

学校名：岡山市立甲浦小学校（おかやましりつこうらしょうがっこう）

校長名：今中 敏夫（いまなかとしお） 児童数：238名 教職員数：31名

住 所：岡山市南区飽浦250

TEL：(086)267-2306 FAX:(086)267-2307

E-mail：kouras@city-okayama.ed.jp

ふくだ 岡山市立福田小学校



1年 秋ランド

2年 昔遊び

3年 青木内科との交流

本校は、地域の方々が大変多くの場面で学校に関わってくださっている。地域のことをよく知り、好きになり、地域のために何かできないかと考えることができる子どもになってほしいと考えている。

低学年では、地域の人たちとふれあうなかで、人と人とのつながりを考えたり、温かく見守ってくれている方への感謝の気持ちを強く抱いたりすることができた。中学年では、自らが地域に目を向けることで、未来における理想の地域社会を考えることができたり、そのために自分たちが今からできることを実践したりすることができた。第3学年における「デイケアセンター訪問」や「スーパーのすごいところ」や、第4学年における「バリアフリーってなんだろう？」から派生した地域の施設調べや「ゴミ大作戦」はその一例である。高学年では、地域の農業の実態を営農されている方から話を聞くことや稲作体験を通して、子どもたちはおいしいお米や野菜、果物を継続してつくるために、地域の環境を守ることはとても大切であることを実感できた。

今後の課題として、情報発信をより積極的に行うことや、子どもたちが地域に働きかけていく場を提供すること等が必要だと考えている。

学校概要

学校名：岡山市立福田小学校（おかやましりつふくだしょうがっこう）

校長名：船田 耕三（ふなだこうぞう） 児童数：792名 教職員数：44名

住所：岡山市南区古新田1095番地

TEL：(086)282-1136 FAX：(086)282-1137

E-mail：fukudas@city-okayama.ed.jp

岡山市立そね曾根小学校



本校のE S Dのテーマは「つなぐれ曾根っ子 社会のために自分から進んで貢献する子ども」です。地域から社会に視野を広げ、持続可能な社会をつくらうという意識を高めていきたいと考え、以下の三つのプロジェクト【①地域の人とつながるプロジェクト】【②環境を守るプロジェクト】【③さまざまな人とつながり、生き方を学ぶプロジェクト】で取組を進めています。

③プロジェクト

第6学年「世界の子どもたちについて 知ろう 考えよう 実行しよう」

世界の子どもたちの諸問題について調べ、自分の生活と比べて考え、カンボジアの支援を行っているNPO法人ハート・オブ・ゴールドを通じて、自分にできる支援活動を行う学習に取り組んでいる。調べ学習や実践を通して、それぞれの国の特徴を尊重しながら相手のことを考えて実践することの大切さや支え合っていくことの必要性をとらえ、自分の生き方を考えることをねらいとしている。平成27年度には、カンボジアNCCCとスカイプ交流2回行った。今後は、内容の深まった交流に広げ、世界の中の自分を考える学習にしていきたい。

学校概要

学校名：岡山市立曾根小学校（おかやましりつそねしょうがっこう）

校長名：鈴木 学（すずきまなぶ） 児童数：151名 教職員数：20名

住 所：岡山市南区曾根139-2

TEL：(086)298-2006

FAX:(086)298-2334

E-mail:sones@city-okayama.ed.jp

ふくしま 岡山市立福島小学校



(第2学年) サツマイモの収穫



(第3学年) ご高齢の方との交流



(第4学年) 車いす体験



(第5学年) 古紙回収

生活科と総合的な学習の時間の活動を発表する場として毎年2月に開催している「福島子どもフォーラム」は、今年度で19回目を迎える。フォーラムには、広く保護者や地域の方を招き、世代を超えた意見交換や質疑応答を活発に行っている。

児童は学年に応じたテーマに取り組むことで、知識の習得はもちろん、調べることによる探究心や、フォーラムを通じて身に付けたプレゼンテーション力も向上している。

(第1学年) 地域の高齢の方と昔遊びをしたり、音楽をプレゼントしたりした。

(第2学年) 野菜の育て方を調べたり、地域の方に聞いたりした。教えてくださった方を招いて交流会もした。

(第3学年) 老人福祉施設を見学したり、施設利用者と交流したりした。

(第4学年) 障がいのある方の話を聞いたり、車いすやアイマスクの体験をしたりした。

(第5学年) 環境問題に目を向け、製紙会社やバイオディーゼル会社と連携してリサイクルについて調べたり、古紙回収など自分たちにできることを実践したりした。

(第6学年) 世界の子どもたちを取り巻く問題について調べる中で、自分にできることを考え、実践した。

学校概要

学校名：岡山市立福島小学校（おかやましりつふくしましょうがっこう）

校長名：福田 博雅（ふくだひろまさ）児童：362名 教職員数：40名

住所：岡山市南区立川町3-37

TEL：(086)264-3151

FAX：(086)264-3152

E-mail：fukusimas@city-okayama.ed.jp

岡山市立興除^{こうじょ}小学校



「地域を愛し、地域に学ぶプロジェクト」

興除小学校では、「郷土を愛し郷土に学ぶ」をテーマとして、次の三つの視点からE S Dの取組を進めている。

- 1 郷土の先人の開拓精神に学ぶ。
- 2 今を生きる郷土の人々に学ぶ。
- 3 郷土の未来を担う夢にあふれた心を育てる。

《具体的な活動》

第3学年：学区在住の、いちごや郷土料理「ふなめし」づくりの名人から、知恵や努力、郷土を愛する思いを学び、ミニ名人を目指して自分たちもいちごの栽培に取り組む。

第5学年：地域在住の方やJ A興除の協力を頂き、米づくりを体験する。手作業で行う田植え・稲刈りなど先人の苦労を追体験しながら、日本の農業の課題、郷土の農業の過去・現在・未来について考えをまとめていく。

これらの取組を通して、自分たちの住む地域の「ひと」や「もの」とふれあい、知恵や努力を再発見していく。そして、地域と自分との関わりから、自分自身の生き方について考えを深めたり、同じように農業に携わっている人が多い地域とつながりをもって、考えを共有したり深めたりすることを目指している。

学校概要

学校名：岡山市立興除小学校（おかやましりつこうじょしょうがっこう）

校長名：山本 佳生（やまもとよしお） 児童数：198名 教職員数：23名

住 所：岡山市南区中畦593番地

TEL：(086)298-2010

FAX:(086)298-2005

E-mail:kojos@city-okayama.ed.jp

岡山市立南輝なんき小学校



南輝小学校では毎年、第6学年が総合的な学習の時間として『南輝かがやき隊』に取り組んでいる。

児童は今までの第6学年が『かがやき隊』として活動する姿を見ているので、第6学年になって初めての総合的な学習の時間には、学校全体だけではなく、南輝学区全体がよくなるような取組をしたいという発言が多く出た。授業で話し合っていくうちに、南輝小学校と南輝学区のどちらも明るく元気にできるのは『あいさつ』だという意見が多く、『あいさつをすれば笑顔も増える』という意見にまとまった。そこで1学期の『かがやき隊』は『あいさつ運動』をすることになり、朝の登校時間に取り組んだ。あいさつ運動の時の様子や感想を給食時間に放送で伝えることであいさつの声もどんどん大きくなってきたようである。地域の方も登校時間に見守りをしてくださっているので、あいさつの輪がどんどん広がっているように感じる。

2学期には、あいさつ運動に加えて、低学年対象に本の読み聞かせをしたり、休み時間に交流遊びをしたり、校内のボランティア清掃をしたりしようと計画している。人と人のつながりを大切にした南輝学区を目指して『南輝かがやき隊』の取組を続けていきたい。

学校概要

学校名：岡山市立南輝小学校（おかやましりつなんきしょうがっこう）

校長名：高塚 憲治（たかつかけんじ）児童数：540名 教職員数：50名

住所：岡山市南区南輝三丁目6-9

TEL：(086)263-5800

FAX：(086)263-5899

E-mail:nankis@city-okayama.ed.jp

ひがしうね 岡山市立東疇小学校



東疇小学校では、平成26年度からユネスコスクールの指定を受け、「ふるさと東畦に学ぶ」をテーマに取り組を進めてきた。全ての学年が、生活科・総合的な学習の時間の中から、ESDに関連の深い単元を設定し、

- ①地域の人・物・文化と体験活動を通して関わること。
- ②自ら発見したことを伝え合うこと。
- ③一つの学びを次へつなげること。

という三点を大切にした実践を行っている。

上の写真は、第2学年の田植え体験の様子である。地域の方に田んぼをお借りし、田植えの仕方を教えていただきながら苗を植えている。今後、興除お米フェスティバルのかかしコンクールに参加したり、稲刈りを行ったりする予定である。また、自分たちが収穫した米を給食で食べることも毎年行っている。このように、1年間を通して米づくりに関わる体験をすることによって、学区が米づくりの盛んな地域であることや、米づくりに関わっている人の思いや工夫を知ることができる。

他学年においても、環境・ボランティア等に関する課題を自分たちの身の回りから見つけ、様々な体験活動を行いながら自分たちにできる活動につながるように実践を進めている。

学校概要

学校名：岡山市立東疇小学校（おかやましりつひがしうねしょうがっこう）

校長名：西森 美加（にしもりみか） 児童数：411名 教職員数：38名

住 所：岡山市南区東畦656-2

TEL：(086)282-0900

FAX：(086)282-6224

E-mail：unekkos@city-okayama.ed.jp

岡山市立第一藤田小学校



各学年において、「地域とつながる」活動を通して、地域の置かれている立場や地域の人々の思いや生き方を知り、まとめの段階で、自分の生活の仕方について考える学習を積んでいく中で、「自分なりの意見を持ち、それを表現したり、発信したりすることのできる子」の育成を目指している。

例えば、第4学年では、「干拓のまち ～藤田～」というテーマで、ゴミ問題や用水などの環境問題について学び、自分の生活の仕方を振り返り、「持続可能な地域をつくるために」自分たちができることを考える活動がある。その一つとして、「保小中による合同クリーン作戦」を行っている。今年は、本校卒業生の藤田中第1学年が全員参加することとなり、彼ら一人一人が自ら、園児や小学生を思いやる優しい声かけをしたり、掃除の手伝いをしてあげたりする姿が見られ、大変頼もしく感じた。今年度は、十分な数の掃除道具を購入したり、活動の終始に一同が集う会の運営を子どもたちに任せたりしたことで、昨年度よりも活発な活動になったと思う。今後は、「地域の人々がきれいになったらいいな。」と感じている所の清掃ができるようになっていくと、地域の人々とのつながりがより深まるものと期待している。

学校概要

学校名：岡山市立第一藤田小学校（おかやましりつだいいちふじたしょうがっこう）

校長名：荻野 克己（おぎのかつみ）児童数：251名 教職員数：26名

住 所：岡山市南区藤田349

TEL：(086)296-2877

FAX:(086)296-2176

E-mail:fujita1s@city-okayama.ed.jp

だいにふじた
岡山市立第二藤田小学校



藤田地区は明治時代から児島湾の干拓によって造成された農業地域である。稲作はもちろん玉ねぎ・れんこん・なす・レタスなど野菜の栽培も盛んである。大変な苦勞をして干拓地を農地にしてきた歴史があり、地域の方々の郷土への愛着や学校に対する思いは大変深い。しかし、近年では、高齢化が進み、商業施設の立地や宅地開発など農地の非農業土地利用化が進んできている。子どもたちはこの地域に長年住んでいたわけではなく、移り住んできた家庭が多いため、地域の文化・歴史にふれる機会は少ない。また、藤田の特色を尋ねられるとすぐに、農作物や自然を例にあげるが、地域の農業や自然に関する関心は薄い。そこで、本校では「地域を教材化」し、子どもたちが「藤田のことを見て、知って、考えて、活動する」ことで、地域を愛する心情を育んできた。第5学年「探検・発見・藤田の農業」では、実際に農業体験をしたり農家の方とふれあったりすることを通して、ふるさと藤田のよさを再発見するとともに地域に暮らす農家の方々の苦勞や努力を知り、藤田の未来の発展のために自分たちにできることは何か、具体的に考えることができる子どもを目指している。今後は、地域の一員として自分たちにできる実践を考え、地域に貢献できる活動を計画していきたい。

学校概要

学校名：岡山市立第二藤田小学校(おかやましりつだいにふじたしょうがっこう)

校長名：谷藤 泰臣(たにふじやすおみ) 児童数：363名 教職員数：27名

住 所：岡山市南区藤田595番地

TEL：(086)296-3129

FAX：(086)296-3127

E-mail：fujita2s@city-okayama.ed.jp

岡山県立第三藤田小学校



地域・食・農業について学習していく中で地域の人々の思いや生き方に学び、自分の生活を振り返る「宝物プロジェクト」と、環境・福祉・国際理解について学習することで幸せについて考え、今の自分にできることを実践していかうとする「幸せプロジェクト」の大きく二つのプロジェクトを通して「様々なつながりの中から自分を見つめ直し自分の生き方を考えていくことができる子」を育むことを目指している。

例えば第5学年では、「藤田に農業は必要か？」というテーマで、自分たちの住む藤田の未来を考える学習を進めている。地域の農家やJA、県立興陽高等学校農業科などにフィールドワークに出かけてインタビューを行ったり、バケツ稲による品種別比較実験、お米の食べ比べなどを行ったりして、「20年後の藤田の農業についての提案書」を作成する。そして、自分たちにできることを考え、実践している。

第6学年ではさらに世界に目を向け、外国の状況を知ったり実際に交流したりする中で、お互いの思いや価値観の共通点・相違点に気付き、自分を振り返ることを目指している。外国の方と直接対話し、自分たちにできることは何かを考え、NPO法人ハート・オブ・ゴールドの方と協働でカンボジアに物資支援活動を行うことで、遠くの出来事だと思っていたことをより身近に感じ、今の自分の生活を振り返るきっかけとなっている。

学校概要

学校名：岡山市立第三藤田小学校（おかやましりつだいさんふじたしょうがっこう）

校長名：藤原 英司（ふじわらひでじ）児童数：140名 教職員数：23名

住所：岡山市南区藤田1757

TEL：(086)296-2479 FAX：(086)296-5243

E-mail：fujita3s@city-okayama.ed.jp

岡山市立足守中学校



足守中学校区は、岡山市北西部の吉備高原の山並みに囲まれた農山村地域で、近年の高齢化、過疎化が深刻な問題となっている。そこで、小学校から一貫して、郷土を誇りに思い、地域社会に積極的に関わり、貢献できる生徒を目指す教育活動として、地域学習を行っている。

《事業概要》「足守中学校地域学習（足守地区活性化プロジェクト）」

- ・ 中学校第1学年：地域再発見学習として自然・産業・歴史・文化に分けた調べ学習を行う。
- ・ 中学校第3学年：第1学年で調べたこの四つのテーマについて探究的な活動を通して、地域の課題を見付け出し、課題克服への方法や地域への提案を、パワーポイントを使ってまとめ、地域に向けて発表する。
- ・ 4月：探究したいテーマごとのグループ分けをする。
- ・ 6月～夏休み：地域をまわって現地調査や取材を行ったり、地域をサポートしているコーディネーターと話し合いをしたり、関係各所へ出向いて取材をする。
- ・ 夏休み後半～2学期はじめ：調べたことをパワーポイントにまとめ、提言を考える。
- ・ 9月中旬：文化祭時に連合町内会長さんをはじめ、地域の方々や地域コーディネーターを迎えて研究成果の発表を行う。舞台上でパワーポイントを使ってプレゼンテーションする班と展示物とブースでのプレゼンテーションをする班に分けて行っている。

この学習を通して、生徒一人一人が自分の生まれ育っている恵まれた自然環境や伝統文化への理解を深めるとともに、それを継承していく地域社会の将来の担い手としての自覚をもつこと、また、地域の新しい未来に向けての創造と課題を見付けるとともに解決方法について考える力を養うことで、主体的に持続可能な社会づくりに参画する力を培うことがねらいである。本活動は第3学年にとっては地域との関わりの中で自己を見つめるよい機会となっていると考えている。

学校概要

学校名：岡山市立足守中学校（おかやましりつあしもりちゅうがっこう）

校長名：藤原 孝憲（ふじわらたかのり） 生徒数：133名 教職員数：30名

住 所：岡山市北区大井360

TEL：(086)295-0250

FAX：(086)295-0252

E-mail：ashimoric@city-okayama.ed.jp

たかまつ 岡山市立高松中学校



高松中学校では、多様な文化や価値観の違いを理解し、あらゆる国、民族、人種、お互いの文化を尊重し合い、誇りにして、伝統を受け継いでいくことのできる人間へと成長していくことを目指している。7月28日には岡山大学大学院教育学研究科ESD協働推進室コーディネーターの柴川さんや片岡さんに協力を仰ぎ、マレーシア出身のイスラム教徒の方との交流会を行った。日本の中学生の学校生活を英語で紹介した後、マレーシアの学校生活を紹介していただき、日本文化との違いや宗教上の生活様式の違い、伝統的な習慣・考え方にもふれることができた。懇談会ではアラビア語でコーランを読んでいただき、音楽の調べのような美しさに感動した。カフェテリアでハラル食材の料理と一緒に食べ、最後にはモスクに行ってお参りも見せていただいた。本やネットなどの情報ではほんの少ししか分からなかったイスラム教のことが、直接会うことで真実にふれ、理解が進むとともに、マレーシアの方々を尊敬できる貴重な体験ができた。

※写真はモスク訪問の様子

学校概要

学校名：岡山市立高松中学校（おかやましりつたかまつちゅうがっこう）

校長名：藤井 禎介（ふじいていすけ）生徒数：481名 教職員数：39名

住所：岡山市北区高松原古才30番地

TEL：（086）287-2052

FAX：（086）287-5970

E-mail：takamatuc@city-okayama.ed.jp

岡山市立建部中学校



建部中学校は国道53号線沿いを旭川が流れており、山にも囲まれ、とても自然豊かな場所に位置している。上の写真は建部中学校区の川に行き、川の生物や地域の草花など地域の自然環境を調べたときの様子である。この活動の目標は環境教育に関連しており、自然に親しむことを通して、自然を守っていかなければいけないと感じたり、その方法について考えたりすることである。写真からも分かるように、膝上まで川の中へ入り生物を探している生徒がたくさんいた。生徒が生物を探しているときの顔は真剣でもあり、楽しそうでもあった。この活動は、地域の自然の豊かさを生かして、生徒が自然とふれあうためのよい機会となった一方で、自然にふれあい親しむだけの活動になってしまった。今後の課題としては、川の生物調査を本格的に実施していくことが挙げられる。川にいる生物を定期的に取りに行き、数や種類がどのように変動しているかを調べたり、また水質調査を行って前年度と比較したりする活動をしていく必要がある。もし生物の数、種類の減少が見られた場合、それを改善するためにどのようなことを自分たちはしていかなければいけないのかを考えなければいけない。将来のことを考えて、今自分たちに何ができるのかを考えるESDの視点をもっと取り入れて行くことが今後の課題である。

学校名：岡山市立建部中学校（おかやましりつたけべちゅうがっこう）

校長名：河合 則雄（かわいのりお） 生徒数：105名 教職員数：23名

住 所：岡山市北区建部町建部上734

TEL：(086)722-0517

FAX：(086)722-2407

E-mail:takebec@city-okayama.ed.jp

岡山市立御南^{みんな}中学校



西支援学校でのボランティアの様子（7月）

○本校の取組「御南中学校ボランティア活動」

本校では、「思いやりと感謝の心の育成」を目指して、身近なボランティアに関心をもち参加をすることで、地域の人や社会に対して進んで貢献しようとする態度の育成に努めている。具体的には、地域協働学校を通して、学校内外で様々なボランティアを呼びかけている。また、ユネスコESDパスポートを活用し、ボランティアに参加したことを記録に残している。子どもたちは、ボランティアに参加する機会も少しずつ増え、パスポートを活用することで楽しみながら地域の貢献に努めている。教師もクラスでボランティアの声かけを率先して行うようになってきている。また、地域の方々からは、「中学生が協力してくれるのがありがたい。」といった意見や、「中学生やPTAが地域の行事や活動に参加することで参加者が増えた。」といった意見が聞かれた。

このように年々地域の方々も中学校へボランティアを要請することが増え、生徒の参加も増えていることが成果である。一方で、参加者が固定しつつあることが課題であるので、校内でのボランティアをきっかけとしてより身近なボランティアに参加する態度を育てていきたい。

学校概要

学校名：岡山市立御南中学校（おかやましりつみなんちゅうがっこう）

校長名：植田 朋哉（うえだともや）生徒数：904名 教職員数：62名

住所：岡山市北区田中581番地

TEL：(086)241-3357

FAX：(086)241-2930

E-mail: minanc@city-okayama.ed.jp

みさおやま 岡山市立操山中学校



操山史蹟めぐり

学区の史蹟をめぐる五つのコースを設定し、ガイドの案内により1.5時間から2.5時間のコースを歩き自然や歴史について学ぶ。また併せてゴミ拾いを行い「クリーン作戦」を実施する。

学区の自然や文化財を知る機会として、子どもから高齢者まで幅広く好評である。普段は見過ごすような道端の石にもいわれがあることに驚いたり、古に思いを馳せたりと、歴史を感じられるひと時を満喫されている。

地域のつながりも生まれており、役員やボランティアのなかの異世代の交流や、多くの地域住民の協力や参加が見られる。受付から片付けまで働く中学生ボランティアも毎年増えている。中学生の力は大きく「中学生を見直した」という意見をたくさんいただいている。

昨年度よりガイド不足を補うため中学生ガイドの募集を始めたが、今年は倍の応募（15名）があり、中学生が大きな役割を担うようになってきた。未熟な中学生ガイドを地域の方が援助してくださる姿も見受けられる。

学校概要

学校名：岡山市立操山中学校（おかやましりつみさおやまちゅうがっこう）

校長名：難波 邦彦（なんばくにひこ） 生徒数：593名 教職員数：52名

住 所：岡山市中区国富3-11-1

TEL：(086)272-2248 FAX:(086)272-2249

E-mail：misaomtc@city-okayama.ed.jp

たかしま 岡山市立高島中学校



本校のE S Dは「美しい郷土，未来へつなげ」をスローガンとし、「郷土愛」と「共生」の二つのプロジェクトで進めている。「郷土愛プロジェクト」では、地域の方と取り組む『溝そうじ』や地域を回って実施する『クリーン作戦』を通じ、自分たちの郷土が、天然記念物アユモドキが生息し、名水として有名な雄町の冷泉がある自然豊かな地域であることに気付くことができるようにする。また、現在の汚染状態を体感することで、自分たちの日々の生活が地域環境に大きく影響しているという気付きを深める。次世代に美しい郷土（人・ものを含む）を残すために、自分たちが今とるべき行動は何か、12月の『もちつきイベント』で、地域に提案・発信する。「共生プロジェクト」では、特別支援学校との交流活動や心や命について考える授業を通じ、よりよい共生社会を築くために自分たちに何ができるかを考えて行動できる態度を育てる。

これらの学習は、全ての教科・領域と関連付け、生徒会を中心とし、地域、保護者、生徒、全教職員で、様々な角度から環境・共生社会についての諸問題について考えを深めるよう取り組んでいる。

学校概要

学校名：岡山市立高島中学校（おかやましりつたかしまちゅうがっこう）

校長名：桑本 祐介（くわもとゆうすけ）生徒数：538名 教職員数：44名

住 所：岡山市中区賞田190-1

TEL：(086) 275-2882

FAX：(086) 275-2811

E-mail：takashimc@city-okayama.ed.jp

岡山^{じょうなん}市立上南中学校



本校の学校教育目標は「支え合う集団の中で、自分を向上させようとする生徒の育成」である。小学校から取り組んできたE S Dの学びを生かしながら、地域の特徴やすばらしさを再確認し、生徒の見方や考え方を広げていきたい。上南中学校は生徒数も少なく、学校全体が一つになって取り組むことができる。また、地域の方や上級生・下級生の仲もよい。課題としては、「自分で考え、判断する」力が乏しいことが挙げられる。E S Dの取組を通して、主体的に物事を考える生徒を育成したいと考えている。第1学年では、人権学習を中心に高齢者や障がい者への理解を深める取組を行っている。第2学年では、広島平和学習を通して、戦争と平和について学び、考える取組を行っている。第3学年では、沖縄の文化や歴史にふれ、平和学習をしたり岡山と沖縄の文化とを比較したりしている。1学期から2学期にかけて、各学年で学んだことを展示物にしたり、オリジナル劇にしたりして「上南祭」で発表する。上南祭には保護者や地域の方も来てくださるので、上南中学校の生徒の取組を発信することができている。また、展示物は後日上南公民館に展示していただくことで、当日来られなかった方にも取組を紹介している。

学校概要

学校名：岡山市立上南中学校（おかやましりつじょうなんちゅうがっこう）

校長名：中桐 伸一（なかぎりしんいち）生徒数：149名 教職員数：23名

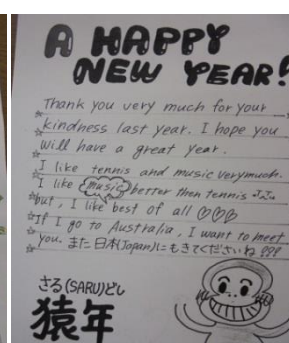
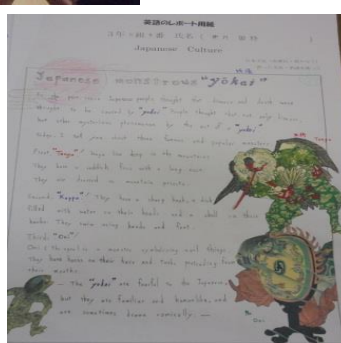
住所：岡山市東区金田722

TEL：(086)948-3403

FAX：(086)948-3431

E-mail：jonanc@city-okayama.ed.jp

せと 岡山市立瀬戸中学校



本校では平成5年度から、生徒の国際理解を進めていくことを目的として、オーストラリアのゴールデングローブ高校（Golden Grove High School 以下 GGHS）と姉妹校縁組を結び、交流を行っている。GGHS からは隔年で秋に教員が来日し、日本の学校教育を学んだり、瀬戸中学校の生徒に英語で授業を実施している。また、1月に GGHS の夏休みを利用し、生徒が瀬戸町内のホストファミリー宅に滞在し、日本の文化を体験している。

昨年度は GGHS の教諭1名が1週間来校。本校の授業日には英語の授業で国際理解教育を行ったり、体育の教諭であったので、エアロビクスの授業を英語を交えて行ったりした。部活動に参加したり給食をクラスで喫食したりする中で日本の文化や習慣を体験する。本校生徒だけでなく教職員共々、GGHS 教諭との交流を通して、日豪の文化や習慣の違いを生きた英語を介して理解している。生徒たちが授業を楽しむ姿や、GGHS 教諭に積極的に英語で話しかけている姿をみて、続けている交流の意義を改めて感じた。英語科教諭だけでなく、他の教科の教諭も積極的に授業に参加してくれ、教職員全体への国際理解も深まったと感じている。

また、学年ごとに日本の文化を英語で紹介し、手紙や作品等の送付を行っている。そうした取組が自国の理解を深めることにもつながっている。

学校概要

学校名：岡山市立瀬戸中学校（おかやましりつせとちゅうがっこう）

校長名：重實 伸彦（しげざねのぶひこ）生徒数390名 教職員数37名

住所：岡山市東区瀬戸町瀬戸444

TEL：(086) 952-0027 FAX：(086) 952-3606

E-mail：seto@city-okayama.ed.jp

岡山^{じょうとう}市立上道中学校



本校では、「地域を愛し、地域に愛される生徒」～学ぶ・防災・貢献～というテーマに取り組んでいる。

「地域を学ぶ」活動として、第1学年は、五つの小学校区の特徴や特色を調べ、情報収集や意見交換・情報発信をすることで地域をより深く学習することができた。第2学年は、地域の職業を調べ、職場体験につなげる学習を行っている。

「地域防災」の活動では、第1学年は地域の防災の取組について地域でフィールドワークを行う。第2学年は、公民館と協力し、実際に災害が起こった場合を想定し、何が必要で自分たちにできる活動は何かを考える活動を行う予定である。第3学年の修学旅行では、熊本県阿蘇地方で学習する予定だったが、熊本県の震災が起こり、現地での学習はできなかった。しかし、第3学年を中心に熊本阿蘇地方の方々への募金活動を行うことを通して中学生の自分たちに何ができるか、考えるきっかけになった。

「地域貢献」の活動は、地域で行われる行事へのボランティア活動である。特にここ数年続いているのが、幼稚園・小学校への読書ボランティアである。他にも地域の振興祭りや小学校での科学実験のサポート、史跡の清掃活動など多数ある。中学生が参加することで、自分も地域の一員であることと自覚し、地域とのつながりを感じることができている。

卒業後も地域に貢献ができるかどうか、今後の課題である。

学校概要

学校名：岡山市立上道中学校（おかやましりつじょうとうちゅうがっこう）

校長名：藤井 隆（ふじいたかし） 生徒数：444名 教職員数：41名

住 所：岡山市東区南古都714番地

TEL：(086)297-2004 FAX:(086)297-2068

E-mail:jotoc@city-okayama.ed.jp

こうなんだい
岡山市立光南台中学校



クリーンアップ光南台

○日時：平成27年9月5日（土）

○場所：児童生徒が住んでいる地区

○参加対象者・人数

光南台中 全校生徒164人 中学校PTA&連合町内会50人

甲浦小 全校児童243人 保護者約200人 連合町内会 40人

小串小 全校児童 34人 保護者約 50人 連合町内会約50人

○内容

光南台中学校区の自分が住む地域の清掃活動。

各グループで、事前にごみの量が多い場所を確認した上で当日の活動計画や分担を話し合い、その後清掃活動を行った。

○成果

- ・ 今まで以上に環境問題に関心をもち、家庭ごみの減量化などに取り組むようになった。
- ・ 中学校の生徒会で啓発ビデオを作成した。クリーンアップ光南台の前にそのビデオを小学校と中学校で観たことが、みんなの活動への意欲を高めるのに効果的だったように思う。
- ・ 地区別生徒会を開いて、地区長の生徒が中心となり、計画から生徒主体であることができた。
- ・ 学校生活で、生徒の意識の中に「ごみは分別して捨てる」ということが当たり前のことになり、校内もきれいに保つよう心掛けるようになった。
- ・ 今年度も土曜授業日を活用して活動を行ったことにより、地域の方々の参加も多かった。
- ・ 自分の地区をきれいにすることで生まれ育った場所に愛着をもつことができた。

○課題

- ・ 前年度やそれ以前と比較して、「現状がどうなったか」「活動の成果がどうであったか」などが分かると、もっとモチベーションが高くなると思われる。しかし、比較要素の検討が必要であり、要素の選定が難しい。

学校概要

学校名：岡山市立光南台中学校（おかやましりつこうなんだいちゅうがっこう）

校長名：下村 和男（しもむらかずお） 生徒数：151名 教職員数：24名

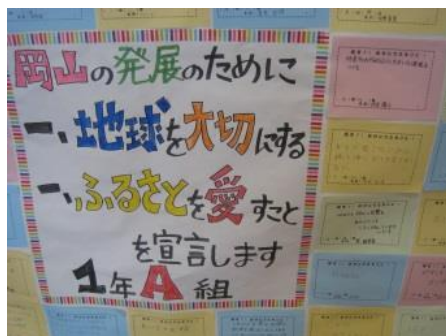
住所：岡山市南区飽浦390

TEL：(086)267-2046

FAX：(086)267-2047

E-mail:konandaic@city-okayama.ed.jp

岡山^{ふくなん}市立福南中学校



第1学年では、アスエコ出前講座でESDの基礎知識や児島湖の現状などを学習した。グループごとに「環境」、「文化」などのテーマを設定して都道府県調べを行った。岡山県の課題や特色も詳しく調べ、「環境」との関わりや岡山県が取り組んでいる事柄を調べた。ESDの学習を通して、私たちにできることや取り組むべきことを提言として作成し、『フェスティバル福南』で展示発表を行った。私たちが住んでいる岡山県の文化や産業、福祉などの課題を見付け、そのような特徴が「環境」とどのように関わるのかを学習することで、自分たちの身近な問題に目を向けることができた。

第3学年では、「調査班」、「活動班」、「発信班」に分かれてテーマごとに活動した。学習をスタートする際には児島湖に限定せず地球温暖化やごみなどの問題にもふれ、生徒たちが世界で起きている環境問題を知ることができるように意識した。児島湖の清掃をしてごみの捨て方を考えたり、ごみを減らすためのポスターを作成したり、調べたことをレポートにまとめたりして、自分の普段の生活を振り返ることで、これからの生活のあり方を考えるきっかけとなった。

学校概要

学校名：岡山市立福南中学校（おかやましりつふくなんちゅうがっこう）

校長名：浅川 弘美（あさかわひろみ）生徒数：463名 教職員数：45名

住所：岡山市南区築港ひかり町10-35

TEL：(086)264-5490 FAX：(086)264-5924

E-mail：fukunanc@city-okayama.ed.jp

岡山^{こうじょ}市立興除中学校



本校は、県南の干拓地に位置し、地震や風水害などに備えるため、『防災教育』を中心にE S Dを進めている。

具体的な取組として、「防災討議」「地域のフィールドワーク」「防災キャンプ体験」を行った。まず、防災に関する問題をグループで話し合い、意見を交換した。次に、地図を見ながら、自分たちで考えたルートを歩き、危険箇所や避難場所、公衆電話、海拔表示などを探した。その後、学校に帰って、防災マップをつくり、報告会を行った。また、避難場所で役立つ知識の習得、段ボールや新聞紙を使っでの防災グッズの製作、非常食の試食などを行うなど、防災キャンプを体験した。

これらの活動を通じて、生徒や教職員は、災害に対する備えを普段からしておく重要性を感じ、実際に災害が起こったとき、自分たちには何ができるだろうかということも考える必要があることに気付くことができた。今後は、保育園や小学校、公民館と連携をとりながら、近隣の方々にも参加を呼びかけた避難訓練を行うなどして、啓発活動に取り組んでいきたいと考えている。

学校概要

学校名：岡山市立興除中学校（おかやましりつこうじょちゅうがっこう）

校長名：河内 真理子（かわちまりこ）生徒数：431名 教職員数：39名

住所：岡山市南区中畦589-4

TEL：(086)298-2034

FAX:(086)298-2039

E-mail:kojoc@city-okayama.ed.jp

ふじた
岡山市立藤田中学校



春の花いっぱい運動

- ① 開会あいさつ
- ② 「はるかのヒマワリ」の紹介とDVD視聴
- ③ 種のまき方の説明
- ④ 種まき（肥料を入れる・種まき・水やり）
- ⑤ 公民館で本校生徒と地域住民との茶話会
- ⑥ 感想の発表
- ⑦ 閉会あいさつ

<感想>

- ・ 中学生のみなさんが、地域の方々といっしょになって活動している姿を見て感動した。今日参加されたみなさんが、地域のリーダーとなって、今後、藤田地区を安全安心な町にしてください。
- ・ 生徒会のみんなが中心となって、全員で一生懸命に取り組んでいる姿に感心しました。生徒のみなさんが、このような活動を通じて友達や地域の方々と絆を深め、すばらしい大人へと成長していくことが、私の幸せでもあります。

学校概要

学校名：岡山市立藤田中学校（おかやましりつふじたちゅうがっこう）
校長名：池葉須 智之（いけばすとしゆき）生徒数：355名 教職員数：30名
住 所：岡山市南区藤田400番地
TEL：(086) 296-2126 FAX：(086) 296-2127
E-mail：fujitac@city-okayama.ed.jp

岡山市立福田中学校



「地域再発見 福田学区スタンプラリー」

今年度で6年目となる取組で、学区内の小学校第4学年から中学校第3学年を対象として、地域の史跡を巡ることにより地域のよさを認識し次世代へつなごうとする意欲と態度を培うこと、また子どもたちが地域の大人と連携して地域の将来の姿を考察し、その姿の実現に向けて主体的に行動する力を身に付けることを目標としている。

今回は53グループの申込みがあり、小学生179名、中学生53名の232名の参加となった。また67名の中学生ボランティアも参加し、小学校第4・5学年だけのグループには中学生ボランティアが1名同行し、協力して取り組むことができた。

コースは健康市民おかやま21作成の「ええとこ発見図」を参考に、高尾地区の三つのチェックポイントを回るコースを計画し、チェックポイントでは町内会の役員の方に、コースの危険個所では小・中学校のPTAの方に協力をいただいた。また、大学生のボランティアにも協力を依頼し、中学生のボランティアの支援をしていただいた。

今回は中学校生徒会でパネルやクイズを準備し、参加者が史跡に対して興味をもって活動することができるような工夫をした。

活動後の感想でも、「地域の知らない事を発見できて良かった。」「中学生の人と話しながら史跡巡りができてよかった。」などの声を聞くことができた。

学校概要

学校名：岡山市立福田中学校（おかやましりつふくだちゅうがっこう）

校長名：福島 治子（ふくしまはるこ）生徒数：388名 教職員数：36名

住所：岡山市南区山田544番地3

TEL：(086)282-0370

FAX：(086)282-4136

E-mail：fukudac@city-okayama.ed.jp

岡山子どもESDフォーラム
岡山市ユネスコスクール推進校
岡山市立高等学校
実践事例集

2016年10月 第1刷

発行 岡山市教育委員会事務局指導課

岡山市北区大供一丁目1番1号

TEL : (086) 803-1591

FAX : (086) 803-1884

E-mail : shidouka@city.okayama.lg.jp